

保育者志望学生に対するピアノ演奏指導の授業 展開と学生の成長に関する一報告

A Report on the Development of Piano Pedagogy Coursework for Students Seeking
Careers in Early Childhood Education, and the Progress of Those Students

高橋 慧*
Kei TAKAHASHI

I 研究の目的

大学における保育者養成課程の中で、保育者志望学生は、保育に関する様々な専門知識や技術を身に付けるが、その中には、音楽分野における保育の専門性としてのピアノ演奏技術の習得も含まれる。保育の現場では、弾き歌いやピアノ伴奏が保育者に必須の技能であることはよく知られており、子どもの音楽活動を行う上で欠かせないものであると言える。そのため、保育職に就きたいと希望する学生は、ピアノ演奏に関する授業の履修が不可欠である。保育者養成課程に在籍する学生には、ピアノ演奏や吹奏楽の経験者が一定程度認められるが、大学に入学するまで一度もピアノを弾いたことがない学生や、読譜能力が全くない学生もいる。そうしたピアノ演奏の経験が浅い学生に対しても、保育現場でピアノを弾くことができるような指導が必要である。

先行研究を見ると、鎌田 (2017) は、ソフージェユカの向上がピアノ演奏技術の習得の質と量に比例することや、リズムに関する指導を取り入れた効果的なピアノ演奏指導について言及している⁽¹⁾。白川ら (2017) は、4年制におけるピアノ指導及び音楽科目全般の方向性について展望を示している⁽²⁾。一方で、この分野に関する研究は十分でない面も認められ、さらなる発展が期待されるところである。

そこで、本報告は、岡山県倉敷市内にある学校法人作陽学園によって経営される作陽音楽短期大学 (2年制) において、その保育者養成課程におけるピアノ演奏に関する授業「ピアノ演習 I」を取り上げる。教員による授業展開と指導内容、及び学生18名から得た質問紙調査の分析結果を対応させながら、より望ましいピアノ演奏指導の方法を探ることを目的とする。

II 方法

1 対象者・方法・期間

本報告の対象は、作陽音楽短期大学音楽学科幼児教育専攻における授業科目「ピアノ演習 I」であり、授業は15回にわたって構成される。同短期大学は、前期・後期の2セメスター制を採用しているが、同授業は、1年次前期の開講として位置付けられている。卒業のための必修科目であり、保育士資格及び幼稚園教諭二種免許状の取得に係る必修科目であるため、所属する全ての学生が履修する授業である。授業担当教員は、筆者を含む3～4名の教員である。

筆者は、この授業の履修者における筆者がレッスンを担当した学生に対して、自記式質問紙調査を実施した。調査は、15回にわたる初回の授業で、4項目からなる質問紙への記入を学生に求め、最終回の授業でも同一の質問紙に記入を求めた。調査日は、20XX年4月及び7月と、その翌年の20XX年4月及び7月であり、計2回で完了する調査を、2年にわたってその年の1年生に対して実施した。協力依頼文を記載した質問紙を配布し、記入後に質問紙を回収した。質問紙の回収率は100% (2年間で18名配布、18名回収) であった。

* 作陽音楽短期大学音楽学科幼児教育専攻 Department of Music, Sakuyo Junior College of Music, Major of Childhood Education

2 調査の倫理的配慮

学生に対する質問紙調査においては、回収した質問紙を厳重に保管し、結果は目的以外に使用しないこと、研究終了後は質問紙及びデータを速やかに破棄することを文書にて説明した。

3 調査内容

調査内容は、「(この『ピアノ演習Ⅰ』の授業を通して感じたことを、) 次の設問ごとに答えてください」と依頼した上で、「①ピアノを弾くことが楽しいと感じますか?」「②保育者としてのピアノの演奏の仕方が身に付いている(身に付いた)と思いますか?」「③自分なりのピアノの練習方法が身に付いている(身に付いた)と思いますか?」「④ピアノ演奏の様々なテクニックが身に付いている(身に付いた)と思いますか?」の4つの質問事項について、0～100点での記入を求めた。また、4つの質問項目それぞれで、「なぜ、あなたがその得点を付けたのか理由を書いてください」との自由記述を求めた。

Ⅲ 結果と考察

1 「ピアノ演習Ⅰ」の授業展開

(1) 授業のねらい

授業における筆者の大きなねらいとして、学生が、下記に示す①～④の項目を達成することができるよう指導することに重点を置いた。

- ① ピアノを演奏することが楽しいと思えるようにする
- ② 保育者としてのピアノの演奏の仕方を学ぶ
- ③ 自分自身のピアノ演奏レベルに即した効果的な練習法を確立する
- ④ ピアノ演奏の様々なテクニックを習得する

(2) 授業の運用方法

「ピアノ演習Ⅰ」は、15回の授業においては、次のような運用方法を採用している。各学生には、90分の授業時間のうち75分の間、ピアノや電子ピアノのある練習室での練習を課している。残りの15分は、担当教員との1対1での個人レッスンを行う。また、15回の授業に加えて、実技試験を行っている。実技試験では、1学年全員の前で暗譜によるピアノ演奏を披露し、教員による採点を経て成績の一部とする。本学の定員は、1学年40名であり、「ピアノ演習Ⅰ」が卒業必修科目であるため、学生は、40名弱の同級生の前で演奏を行うことになる。実技試験において、学生には非常に緊張する様子が見られるが、保育所や幼稚園における採用試験でのピアノ演奏を見据えた経験として、重要な役割を果たすと考えられる。

(3) 授業を行う上での工夫点

授業を行う上での工夫点について、上記4つの授業のねらいと関連させて述べる。

① 「ピアノを演奏することが楽しいと思えるようにする」ための工夫

学生の中には、クラシック音楽に対して全く興味を示さない者も多く、また、本学の保育者養成課程の在籍者のほとんどが女子学生であることから、そのような学生には、ディズニーやジブリの曲等、ピアノを弾いてみたいと興味を持ちやすい楽譜を提供するようにしている。特に、初級者の学生については、ピアノを弾くことに抵抗があったり、楽しいと思えなかったりする場合も多く認められ、少しでもピアノに親しむには、その学生の個人的な好みを踏まえる必要があると考えられる。

② 「保育者としてのピアノの演奏の仕方を学ぶ」ための工夫

保育現場では、ピアノ演奏は演奏者の芸術的活動ではなく、あくまで子どもが楽しんで音楽に親しめるようにするための活動の中に、その援助として位置付けられるものである。したがって、職業人としてのピアニストのように、1つの曲を数ヶ月にわたって練習したり、楽譜に忠実に演奏することを追求したり、音楽的芸術性を極限まで高め続けるようなことは、指導において行き過ぎないように心掛けている。保育現場では、短期間のうちにピアノ伴奏を練習し弾くことができるよう求められた

り、子どもの年齢に応じて曲のテンポを自由に変更したり、曲の一部を自ら編曲して弾いたりするような臨機応変な対応も不可欠であるため、そのような保育現場を見通した指導を行った。

③「自分自身のピアノ演奏レベルに即した効果的な練習法を確立する」ための工夫

学生の中には、ピアノを習い事で弾いていた学生がおり、10年以上のキャリアのある学生もいる。一方で、ピアノを弾いたことが全くない学生もおり、ピアノ演奏能力の幅は非常に広い。読譜に難しさを感じる学生、利き手でない方の手の操作に難しさを感じる学生、特定の運指に困難を感じる学生、集中力のある学生やそうでない学生等、学生はそれぞれ個別の苦手意識や特性を持っており、それに適した練習法を学生と共に考えることを心掛けた。保育現場に就職すると、ピアノの演奏や練習は、独力で行わなければならない部分が多く、他人の援助を求めることは中々できない。ピアノ演奏が上手にできるかどうかは、ほとんど本人による練習の内容次第であると言えるため、各学生の演奏レベルや特性に応じた効果的な練習を模索することを心掛けた。

④「ピアノ演奏の様々なテクニックを習得する」ための工夫

ピアノ演奏のテクニックの習得には、教材や楽譜の選定が極めて重要になってくる。筆者は、初回の授業において、履修学生にアンケートを実施し、初級者、中級者、上級者に分類することで、それぞれの能力に対する楽譜（課題曲）を選定し渡すようにした。また、学生が、なるべく異なる様々なテクニックを習得できるように、課題曲に求められる演奏上のテクニックが、課題曲ごとに重複しないよう注意した。

2 学生に対する質問紙調査

18名の学生は、「(この『ピアノ演習Ⅰ』の授業を通して感じたことを、) 次の設問ごとに答えてください」との前提を踏まえ、「①ピアノを弾くことが楽しいと感じますか?」「②保育者としてのピアノの演奏の仕方が身に付いている(身に付いた)と思いますか?」「③自分なりのピアノの練習方法が身に付いている(身に付いた)と思いますか?」「④ピアノ演奏の様々なテクニックが身に付いている(身に付いた)と思いますか?」の質問項目に対して、どのように回答(0~100点)したのだろうか。また、「なぜ、あなたがその得点を付けたのか理由を書いてください」の質問には、どのような自由記述を記したのであろうか。

そこで、学生18名を初級者、中級者、上級者に分け、それぞれ初回と最終回の授業でどのように得点に変化したかを算出したところ、表1が示された。先述した4つの授業のねらいと表1を対応させ、自由記述の回答内容も踏まえながら、学生の成長及び指導の効果、今後の課題について明らかにしてみよう。下記における枠内は、自由記述の回答の代表例を示している。

表1 初回及び最終回の授業における初級者・中級者・上級者それぞれの得点(0~100点で回答)の平均点

		質問①	質問②	質問③	質問④
初級者 n=6	初回	5.0 (8.4)	36.7 (25.0)	3.3 (8.2)	2.5 (4.2)
	最終回	45.0 (13.8)	63.3 (10.3)	35.8 (10.2)	45.8 (12.8)
中級者 n=7	初回	50.0 (12.9)	50.0 (20.0)	35.7 (17.2)	30.0 (11.5)
	最終回	67.9 (9.1)	61.4 (20.4)	44.3 (14.0)	54.3 (12.7)
上級者 n=5	初回	72.0 (13.0)	86.0 (13.4)	68.0 (8.4)	64.0 (5.5)
	最終回	78.0 (11.0)	94.0 (8.9)	73.0 (6.7)	76.0 (5.5)

注)()内は標準偏差、nは人数を示す。

(1)「ピアノを演奏することが楽しいと思えるようにする」

この項目は、質問紙調査における質問①に関連する。初級者と中級者については、得点の伸びが大きい。保育者志望学生は、ほとんどが女子学生であるため、ディズニーやジブリの曲を弾くことに

して大きな興味を示す場合が多かったが、やはりそうした興味・関心を示す課題曲の提供が、ピアノを弾くことの楽しさに繋がるのではないかと考えられる。それは、「好きなディズニーの曲を弾くことができて楽しかった」等の回答に代表される。一方、上級者の得点はわずかに増えた程度である。上級者の学生は、元々得点が高いものの、ピアノの演奏がさらに楽しく思えるような授業展開が今後の課題であると考えられる。

[初級者]

- 好きなディズニーの曲を弾くことができて楽しかった。
- ジブリが好きなので、トトロなどの曲を弾くのが楽しい。
- ピアノを丁寧に教えてくれてよかった。楽しかった。

[中級者]

- 自分の弾きたい曲を何曲か弾けたのがよかった。
- 高校の時に授業で習ったが、その時よりも弾けるようになった。

[上級者]

- ピアノは小さい頃から習っていて、ピアノを弾くのが好きですが、授業でもピアノを弾けて楽しかった。

(2) 「保育者としてのピアノの演奏の仕方を学ぶ」

この項目は、質問②に関連する。初級者と中級者については、得点の伸びが大きい。音楽家とは異なる、保育者としてピアノの演奏の仕方について、学生が考える機会を持たたのではないかと考えられる。それは、「保育の仕事では、楽譜をすこし変えたりしてでも子どもが歌いやすいようにしたりすると言われて、すこし驚きだった」等の回答に表れている。

[中級者]

- 保育の仕事では、楽譜をすこし変えたりしてでも子どもが歌いやすいようにしたりすると言われて、すこし驚きだった。
- 楽譜の難しいところをいくら練習しても弾けなかったが、自分で弾けるように臨機応変に編曲したりして、子どもの前では止まらず弾く方が大切と言われたのが印象的だった。

(3) 「自分自身のピアノ演奏レベルに即した効果的な練習法を確立する」

この項目は、質問③に関連する。初級者の得点の伸びが、非常に大きいと言える。授業では、特にピアノが苦手な学生に対しては、授業を行う上での工夫点として先述したように、様々な効果的な練習方法について教示することを心掛けたため、得点が大きく伸びたと考えられる。今後の課題は、中級者・上級者に対するさらなる指導の充実である。自らにとっての効果的な練習法の確立は、半期6か月間の15回の授業内で完成させることが難しい面もあるため、継続的な支援が求められる。

[初級者]

- 最初は、何から始めればよいか分からなかったけど、だんだん自分の苦手なところを教えてもらって、練習の仕方もわかるようになってきた。
- ピアノの弾き方が、少しずつわかるようになってきた。どのように練習すれば上手になるのかも勉強できた。

[中級者]

- 昔、ピアノを弾いていたけど、弾かない時間が長かったので忘れていて、いろいろなピアノの練習方法を教えてもらって、昔を思い出したり、昔より上手になったと思う。

(4) 「ピアノ演奏の様々なテクニックを習得する」

この項目は、質問④に関連する。初級者の得点の伸びが大きいですが、中級者と上級者も得点が大きく増加している。ピアノ演奏の様々なテクニックの習得は、様々な異なる種類の課題曲に取り組むこと

によって得られると考えられる。「バイエルの難易度を上げていったので、ちょっとずつ上手になったと思う」「全部で4曲弾いた。ペダルがあったり、左手が難しかったり、テンポが速かったりして、曲によって難しいところがあるところがあった。試験で上手に弾けてよかった」等の回答が該当する。

[初級者]

■バイエルの難易度を上げていったので、ちょっとずつ上手になったと思う。

■最初は、簡単なジブリの曲で、すこしずつ難しくしていろいろな曲を弾けた。

[中級者]

■全部で4曲弾いた。ペダルがあったり、左手が難しかったり、テンポが速かったりして、曲によって難しいところがあるところがあった。試験で上手に弾けてよかった。

[上級者]

■難しすぎる曲にチャレンジして弾けない時もあったが、テクニックは伸びたと思う。

IV まとめと今後の課題

筆者は、保育者志望学生に対するピアノ演奏指導の授業において、4つのねらいを設定し、それぞれのねらいに対して授業展開の工夫を心掛けた。その結果、特に初級者の学生に対して大きな効果があったと考えられ、それは、0～100点で記入した得点の伸びや、自由記述の回答からも明らかである。中級者・上級者に対する効果も認められたが、特に上級者の学生に対する効果が低い面も見られた。ピアノ演奏が得意な学生が、保育者養成課程において、どのようにピアノ演奏に対するモチベーションを高め、テクニックや技術を上達させることができるのかについて、今後の指導における課題としたい。

引用文献

- (1) 鎌田千佳「保育士養成校におけるピアノ基礎学習指導の考察：マルチタスクな活動を通して」、千葉敬愛短期大学紀要 (39), 2017, pp.383-390.
- (2) 白川浩・白川千春「4年制大学の保育士・幼稚園教諭養成課程におけるピアノ演奏技能の教育内容とその展望 (I)」, 人間と文化 (1), 2017, pp.57-61.

